

「うわがらないで」 ミミズ君は大地をたがやす

星木 レイ

さつちゃんは、お母さんと畑に来てい
ます。

この畑は、農薬を使わずに、近くの林
の落葉を土にまぜて、野菜を育てていま
す。土がフカフカでとても気持ちがいい
ので、さつちゃんは畑のお手伝いが大好
きです。

今日は大根の種をまくのでスコップで
土をたがやしていると、ニョッキリと大
きなミミズが顔を出していました。

「きゃあー！」とさつちゃんがさけぶと、
ミミズ君も「うわあー！」とおどろきまし
た。

ちよつと落ち着いたさつちゃんは、ま

じまじと大きなミミズを見ました。

「なんて太くてりっぱなミミズ君なん
でしょう」

さつちゃんがつぶやくと、ミミズ君は
ちよつと自慢気に言いました。

「エヘン！ ボクはシーボルトミミズ
っていうんだよ」

さつちゃんは目をまるくして、

「へえー、ちゃんと名前があるのね」

と感心して言いました。

ミミズ君はますますうれしそうに言い
ました。

「ボクたちは四億年前からほとんど形
を変えずにきているんだよ」

「すごーい！ミミズ君は何か得意なこ
とがあるの？」

さつちゃんがたずねると、ミミズ君は
体をくねらせて言いました。

「ボクたちはね、枯葉を食べて細かく
して、土の中のすごく小さな生き物とい

っしょにお尻から出すんだ。そのフンで

土がとっても栄養いっぱいになるんだよ」

「そのおかげで野菜が元気に育つのね」

ミミズ君は今度はのびたりちぢんだり
しながら、

「こんなふうに動きながら土の中を進
むと、土の中に空気がゆきわたるんだよ」

「それで土がフカフカになるのね。お
友だちはほかにもいるの？」

さつちゃんがたずねると、ミミズ君は
うなずきながら、

「田んぼにはイトミミズが多いね。頭
をどろの中につっこみながらお尻を上

出してフンを出すんだ。するとどろがと
つてもクリーミーになって、雑草も生え

にくくなるのさ」

さつちゃんは感心して、

「ミミズ君たちのおかげで土がたがや
されて、栄養たっぷりになって植物が元
気に育つのね。苦手なものはないの？」

少し心配そうにさつちゃんが聞くと、

ミミズ君はも困ったように言いました。

「モグラとかウサギ、イノシシ、あと

はいろんな鳥かなあ…」

するとさつちゃんが指をさしながら、

「あの大きなサギとか？」

ミミズ君が「えっ？」とふり向いたと

たん、大きなサギがパクツとミミズをく

わえて空高く飛んでいきました。

「ああ…今度はサギの栄養になるのね

…ミミズ君、えらいなあ」

とさつちゃんはつぶやきながら小さくな

っていくサギを見つめていました。

おしまい



質問箱

質問

なかなかコロナが終わりません。
何に気を付ければいいですか

(埼玉 小五 男子)

答え

おっしゃる通り、コロ

ん。私は医療の専門家ではないので、

お医者様や学校の先生方が伝えて

くださることを続けていくことが

大切だと思います。私が大切だと

思うのは、「ものの考え方」です。

私たちは、つい人と自分を比べ

ます。

「あの人よりはマシ」「あの人だ

けずるい」「あの人より…」「あの

人だけ…」

人と比べてしまうと、人の事が

嫌になり、時にケンカになること

もあるでしょうし、仲が悪くなり

ます。いろいろなことをガマンし

ている今、特に人と比べないよう

にすることが大切です。

レゲエの神様といわれたボブ・

マーリーの言葉に

「指をさして人を非難(悪く言う)

する前に、君のその手がよごれて

いないか確かめてくれ」

という言葉があります。人と比べ

るのではなく、まずは自分。自分

の悪い部分に気づき反省しましよ

う。

時々自分と向き合い、自分と

会話しましょう。「良いことできた

な」「悪いことしちゃったな」良い

ことは、がんばって続けていき、

悪いことは反省してもうしないよ

うにしましょう。

それが1番やりやすい場所があ

ります。それはお寺の本堂やお仏

壇など仏様の前です。仏様に手を

合わせると、自分と向き合うこと

ができますよ。時々はお寺やお仏

壇の前で手を合わせてみてくださいさ

いね。

コロナの終わりまでもう少し時

間がかかりそうですが、人と比べず、

自分と向き合い乗りこえていきま

しょう。

これも仏教の言葉だよ!

『ありがとう』



「ありがとう」言っても言われてもうれしい言葉。感謝やお礼の言葉です。

実はこれも語源は「有難し」という仏教の言葉です。

「人間に生まれることは難しい。やがて、死んでいくもの、いま生命あることは有難し」とお経(法句経)に説かれています。「ありがとう」の語源は「有難し」。つまり「有る」ことが「難しい」という意味です。「有る」ことが「簡単」と思ったら「ありがとう」はできてきません。「当たり前」と感じて、感謝の言葉は出てきません。

お母さんがお腹を痛めて産んでくれたこと、毎日生活していること、学校に行けること、勉強できること、習い事できること、

よくよく考えたら、教えてくれる人がいる、サポートしてくれる人がいる、働いてくれる人がいる、見守ってくれる人がいる、いろいろな人のお陰の中で生かされているのがこの私達です。すべて当たり前ではなく、「有る」ことが「難しい」ことです。有難いことは口にして相手に伝えましょう。

「ありがとう」言っても言われてもうれしい言葉。使わないともったいない言葉です。家族に、友達に、先生に、積極的に使っていきましょう。

ちがいがし

みんなよう 考えよう

お知らせ

みなさんからの記事を待っています。学校でのこと、家の中のこと、家族のこと、友だちのことなどを書いて送ってください。またみなさんからの作品も待っています。絵や作文お習字など何でもけっこうです。

送先は 〒873-0002 大分県杵築市大字南杵築371 正覺寺内 浄土宗児童教化連盟事務局 TEL 0978-62-3063 FAX 0978-68-8301 感想もいっしょに書いてくださいね。



絵：岡本こずえ



右の絵と左の絵の違いを5つ見つけてください。

ハガキに答えを書いて左記まで送ってください。正解者の中から抽選で30名に記念品をお送りします。記事の感想や意見もいっしょに書いてくださいね。しめきり令和5年3月31日です。

送先

〒873-0002 大分県杵築市大字南杵築371 正覺寺内 浄土宗児童教化連盟事務局 TEL 0978-62-3063 FAX 0978-68-8301

前回の答え



ぶくぶく編集室



一年間で人間の命をうばう動物ランキングというのがあります。一位は何と蚊で、年間で八十三万人の人が亡くなっているそうです。蚊は感染症の原因となるウイルスや寄生虫などを人にうつします。蚊が媒介する感染症にはマラリアやデング熱、ウエストナイル熱、日本脳炎などがあり、いずれも重症化すると命を落とす危険のある怖い病気です。蚊といっても油断できません。

二位はというと、人間で年間五十八万人です。戦争やテロ、殺人で命が失われています。以下三位はヘビで年間六万人が亡くなっています。

あとサソリが三五〇〇人、カバが五〇〇人、ゾウは一〇〇人、トラは五〇人で、サメは六人と意外と少ないそうです。でも人間は毎年一億匹ものサメを収穫するので、何か複雑な気持ちになりますね。